

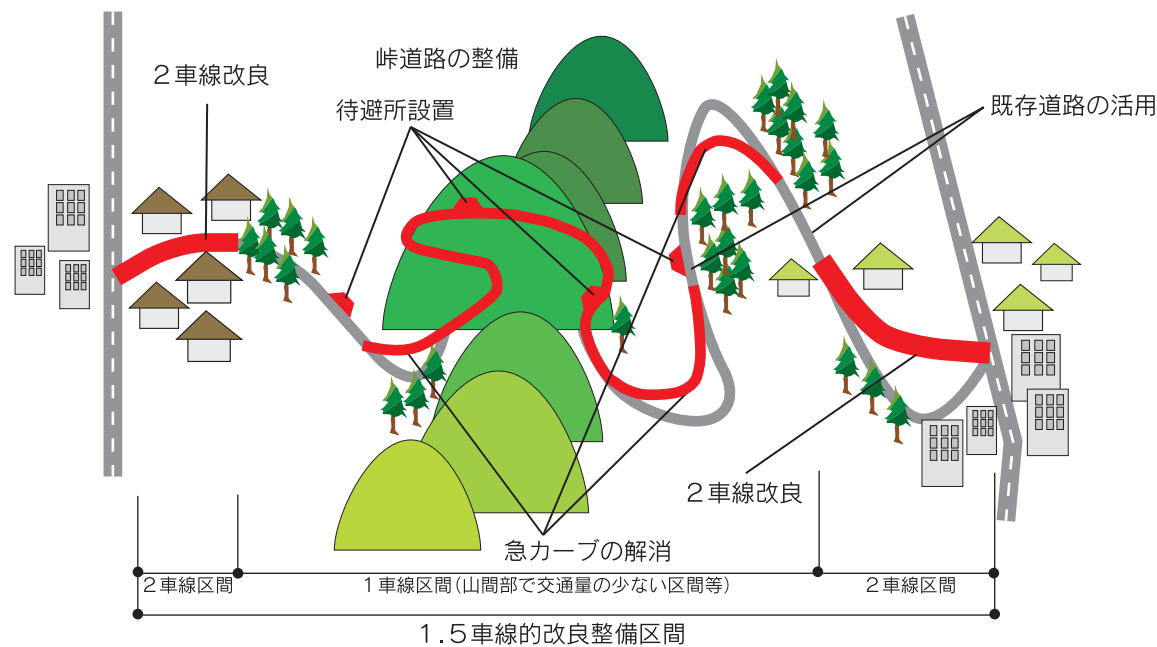
道づくりの3つの進め方の具体例

3つのポイントを踏まえて道づくりを進めます!

進め方1 効率的、経済的な事業展開を図る

■地域の実情にあった道路整備 (ローカルルール)

地域の実情に応じた柔軟な規格運用により、コストの縮減や整備効果の早期発現を図ります。

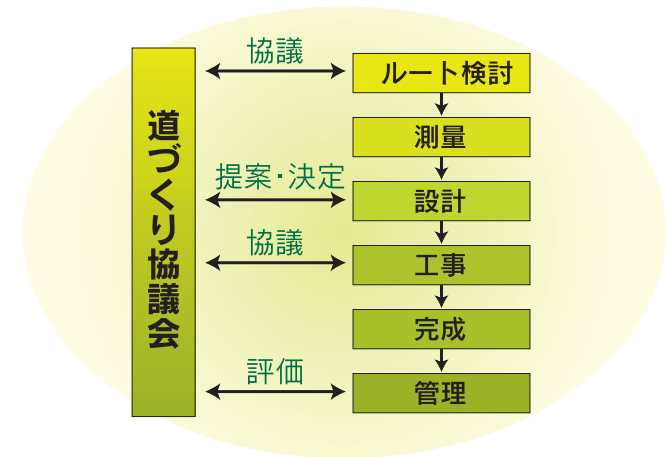


例・1.5車線の整備:山間部で交通量の少ない区間等で、地形や利用状況などを考慮しつつ、1車線改良と2車線改良を適切に組み合わせた整備を行います。

進め方3 県民の意見を聞く取組みを進める

■積極的な広報・説明活動

道路計画の透明性・公正性を確保し、事業を円滑に進められるよう、道路整備に関する各種パンフレットの発行、新聞・テレビ等のマスコミの活用、ホームページの拡充など、積極的な広報・説明活動を行います。



「道づくり協議会」による住民参画

■県民の意見やニーズの把握

事業内容や規模に応じて道づくり協議会を設けるなど、地域住民の意見を取り入れて合意形成を図りながら道路整備を進めます。

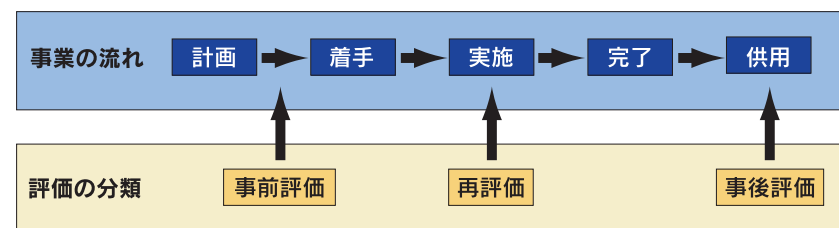


県民の意見やニーズの把握とその反映のイメージ

進め方2 県民にわかりやすい指標による評価を行う

■公共事業評価システムの拡充

公共事業の実施に当たっては、公共事業評価システムに基づき、事業の必要性、緊急性など総合的な評価を実施し、真に必要な事業の選択と集中により、事業の重点化と整備効果の早期発現を図ります。また、これらの評価結果を計画決定に反映させます。



公共事業評価システムのイメージ

■成果(アウトカム)に着目した指標による評価

道づくりの必要性を明確にするとともに道路事業を効率的に推進するため、「県民生活の何がどのように改善されるか」という成果に着目したわかりやすい指標(アウトカム指標)による評価を行い、公表していきます。

○アウトカム指標の例

基本目標	アウトカム指標	過去(平成10年)	現在(平成15年)	将来
地域をまぎすく	大都市圏との交流の促進 ■大都市圏からの所要時間の短縮 (①東京から福井市までの所要時間の短縮) (②神戸から敦賀市までの所要時間の短縮)	①6時間40分	①6時間40分 -80分	①5時間20分
		②3時間50分	②3時間20分 -30分	②2時間50分
地域をまぎすく	県境を越えた連携の強化 ■2時間行動圏の拡大(福井市の日帰り圏の拡大)	117市町村	117市町村 +17市町村	134市町村
		22市町村 (小浜西IC開通前)	24市町村 (小浜西IC開通後)	+11市町村 全市町村
地域をまぎすく	地域間連携の強化 一市町村合併の支援一 ■福井の道30分圏構想(30分圏達成市町村)	13万人	13万人	+25万人 38万人
地域をまぎすく	過疎・高齢化・多自然型居住への対応 ■医療施設からの時間短縮効果(福井社会保険病院から30分圏カバー人口)	13万人	13万人	+25万人 38万人

※上記に記載した指標は、基本目標における1例を示したものであり、今後、運用しながら内容の充実を図っていきます。